

男女共同参画社会を  
めざす広報誌

# ひらく

一点を支点としてひらく／窓・扉を  
ひらく／道をひらく／口・目をひらく／  
花がひらく／運をひらく／文化を  
ひらく／インターネットをひらく／新  
聞・本をひらく／講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

座談会

## 20年経ちました 小平市男女共同参画センター“ひらく”



2025.3

56

# 特集

アンケート  
100人に聞きました

## 座談会

# 20年経ちました

# 小平市男女共同参画センター“ひらく”

### はじめに

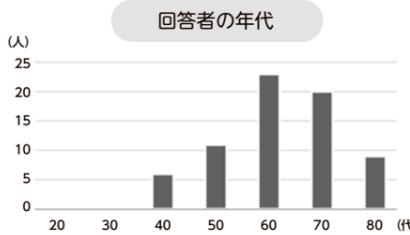
小平市男女共同参画センター“ひらく”は、小平元気村おがわ東に設置されてから、令和6（2024）年1月で20年が経ちました。そこで、小平市男女共同参画推進実行委員は「センター“ひらく”の利用状況アンケートをとって何がえてくるかを基に、センター“ひらく”の目的にかなう今後の在り方を模索してみようか」と考え、特集を組むことになりました。アンケート配布総数100枚、回収数73枚。小規模なアンケートになりましたが、市内外さまざまな年代の人たちに尋ねました。本記事は、アンケート結果についての実行委員による座談会をまとめたものです。

### 男女共同参画センター“ひらく”のあゆみ

司会 では、アンケート結果に入る前にセンター“ひらく”設立当初の事情を知る実行委員に伺いましょう。センターの愛称ですが、男女共同参画社会をめざす広報誌「ひらく」と同じ名前ですね。

委員① 広報誌「ひらく」は平成9（1997）年創刊です。平成14（2002）年に策定された、改訂版小平アクティブプラン21で明文化されました。平成11（1999）年に国の男女共同参画社会基本法が施行され、平成16（2004）年にセンター“ひらく”は開設されました。（その後、平成21（2009）年、小平市男女共同参画推進条例が

昭和50(1975)年	（国際婦人年）
メキシコシティで第一回世界女性会議開催	
昭和60(1985)年	国連の女子差別撤廃条約を日本が批准
平成7(1995)年	北京で第四回世界女性会議開催
平成8(1996)年	小平アクティブプラン21(小平市女性施策推進計画)策定
平成11(1999)年	国の男女共同参画社会基本法施行
平成12(2000)年	東京都男女平等参画基本条例施行
平成15(2003)年	小平市男女共同参画センター条例制定
平成16(2004)年	小平市男女共同参画センター“ひらく”開設
平成21(2009)年	小平市男女共同参画推進条例施行
令和4(2022)年	「男女共同参画宣言都市こいだいら」を宣言



### 施行されました。

委員② 実行委員を含む、小平市の女性施策に協力してきた市民の間で「他市にもあるような男女共同参画センターができた良いのでは」という機運が高まり、実現したんです。

委員① センターの愛称募集をした結果、広報誌と同じ名前がいいという意見が多く、ひらくに決まりました。司会 設置当初のセンター“ひらく”に求められた役割とはどういうものだったんでしょうか。

委員② 部屋には常駐する職員はいませんでした。同じ担当課（当時の青少年男女平等課）の青少年センター（当時、ひらくの近くにありました）の職員から鍵を借り利用届を出して部屋を使い始めました。男女共同参画を推進する団体が登録して活発に活動する場所になっていました。広報誌「ひらく」の編集会議は夜間でも開かれました。

委員③ 当時、市内の公共施設の部屋は空いていても、予約しないと利用できなかった。予約しなかったが、センター“ひらく”は空いていれば当日でも利用ができました。もちろん公共施設予約システムもありませんでした。

「ひらく」は広報誌を、ひらくは小平市男女共同参画センターを意味します。

司会 回答の選択肢「遠いところにある」はいかがですか。

委員⑤ 市の中心地からはかなり離れた場所であることは事実ですが、萩山駅から数分の場所ですから、その気になれば行ける場所です。小平グリーンロードもすぐそばにあります。

委員⑥ 回答の「場所がわかりづらい」も前述のように、必要性があれば探せるのでは、とは思いますが、でも、手軽に、という点では利用しにくいのは確かだと思えます。

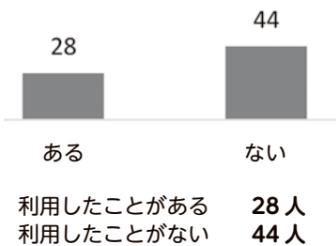
司会 回答の「自分には関係がない」はどうでしょうか。

委員③ 男女共同参画センター“ひらく”の設置意義が伝わっていないような気がします。

委員④ 回答の「女性が利用する場所だ」と思っていた「同じような感じでしょうか」。

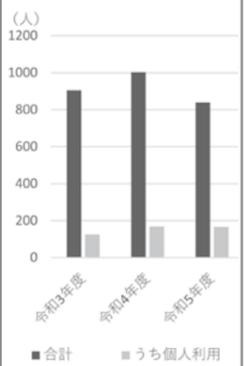
司会 アンケート結果の「小平市に男女共同参画センター“ひらく”があると知らない」と回答した方は、もちろん「利用したことがない」ということですね。

問2 小平市男女共同参画センター“ひらく”を今までに利用したことがありますか？



【4ページへ続く】

### “ひらく”年間利用人数



### ◆アンケート 問6の自由記述

「利用してお気づきの点やご感想などありましたら、ご記入ください。」

※重複する意見・感想はまとめました

入り口がわかりづらい。中は温かい雰囲気でした。広報誌「ひらく」はよく知ってましたが、「利用する場所」であることは知らなかった。利用をしていたのは少し前です。事務の方が出て困りごとは聞ける半面、個人情報や会議内容を聞かれては少し不安がしてやりにくかった。おもちゃもあり使いやすいレイアウトで子育て世代としてお世話になりました。広く知ってもらいたい場所です。3階にある教育相談室の帰りに寄ったり、時間潰しに図書やチラシを閲覧したりしていたこともあったが、今は用事がなく足が遠のいている。エアコンが壊れていて使えないので、とても不親切です。資料がたくさんあるが、もつと整理して見やすいようにしてほしい。プロジェクトが古くて使えない。留守番の職員の方はとても熱心であるが、男女共同参画に精通し市民の声を聞ける方を採用してほしい。駐在の方がいるので話す内容に気を使う。駐在の方が専門家（市の職員）ではないので相談を目的に訪れにくい。市はこの場所の活かし方、運営を本気で考えないと時代に取残される。他市のように専門職員がいてほしい。相談機能など他市レベルに整えてほしい。

【左ページへつづく】

### 【右ページ下から】

現状では単なる部屋貸し／ホームページでは午後9時までと記載されているが、実際には夜間使用できなくて不便さを感じる。ところがある。利用届に個人情報記入するのに抵抗がある。市の職員もいないし男女共同参画センターとして機能していないのが残念。今は場所も目立たず、実質的には貸し部屋としてしか機能していないのでもったいない。資料が男女共同参画をテーマに揃っているのは良いですが、それをもっと利用してもらえると良いと思います。交通の便のよい小川に移ることもあり、より活動の充実を期待する。小川駅前に移ると聞いていますが、今よりたくさんの方に利用してもらいたい。市の男女共同参画がより充実していくセンターになることを望みます。他自治体のようにセンターとしてテーマを決めたイベントなどがあるとよい。（男女平等参画に関連する身近なことも市民に伝える企画）／部屋を借りるほどの時間や内容でないちょっとした打ち合わせに気軽に使えて良いと思う。靴を脱がなくてはならないのが不便。個人で利用するときは入りやすい。入ってよい部屋かわからない。利用する度に管理人がちがいがいい、ちがう対応をされるのが困る。相談機能がないため、別の場所の相談窓口を紹介するのは問題だ。相談とまではいかないが、困り事・考え事の整理をする場所として利用してきた。元気村館内で働く人がお弁当を食べているのを見たことがある。よいと思う。読みたい本がたくさんあるが借りて返すのが時間がない（遠い）。図書館と同じようにこの図書館ポストにも返せるとありがたい。空いていれば個人でも使えるというのはい「隠れ家」としてよいと思う。利用できる時間帯かどうかわかる仕組みがあるとよいと思う。（知らないだけかも）／部屋を利用する

【次ページ最下段へつづく】

司会 20年経ち、現状はかなり様変わりしている印象です。

委員② 時を経て、徐々に変化してきたとは思いますが。広報誌「ひらく」を編集する公募市民もピーク時には25人いたのが、現在は7人です。

### アンケートから見えてくる現状

司会 アンケート結果の「この場所を知っているのに利用していない」人が多かった理由を考えてみましょう。まず、回答の選択肢の中の「使い方がわからない」から見えてくることはなんですか。

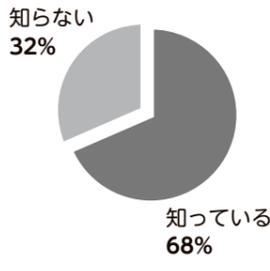
委員③ 利用方法がわかりやすく周知さ

れないという点です。

司会 センター“ひらく”のリーフレットにはかなり詳しく利用の仕方が記載されています。

委員④ 公共施設で探すつもりであれば、見つかるかもしれませんが、たくさん印刷物の中に埋もれているのでは…。

問1 小平市に男女共同参画センター“ひらく”があることを知っていますか？



### ◆下記の条例・法律に基づいてセンターは設置されました

平成15年  
条例第23号

○小平市男女共同参画センター条例（抜粋）（設置）

第1条 男女共同参画社会の形成（男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）第2条第1号に規定する「男女共同参画社会の形成」をいう。以下同じ。）の促進を図ることを目的として、小平市小川東町4丁目2番1号小平元気村おがわ東に小平市男女共同参画センター（以下「センター」という。）を設置する。

（事業）  
第2条 センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 男女共同参画社会の形成に係る情報の収集及び提供に関すること。
- 男女共同参画社会の形成を促進するための施設の提供に関すること。
- 前2号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業

平成11年  
法律第78号

○男女共同参画社会基本法（抜粋）（定義）

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 男女共同参画社会の形成 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成することをいう。

委員⑤ センター「ひらく」には大きな本棚があり、男女共同参画に関する蔵書も年々増えて700冊もあります。



「もうひとつの図書館」と言われた頃もあった室内

委員③ 「探していた本がこんなにそろっている」と喜ぶ人の声を聞いたことがあります。書店では「男女共同参画」という棚はなく、別々の棚に並べているからでしょう。

委員⑥ 関連の配布物もずらりと並んでいます。また、都内や近隣の自治体の講演・講座の情報も閲覧可能なんですけどね。

司会 おそらく一度も来たことがなければ想像もつかないでしょうね。

委員① 本当ですね。登録団体の会議だけではなく、ふらっと立ち寄る個人利用も可能だと伝えたいですね。

司会 センター「ひらく」利用経験者の声からもそれが伝わってくる内容でしたね。

委員② 同じ建物内にある子ども家庭支援センターに立ち寄った後、お子さん連れで立ち寄ったという内容もありましたね。

委員⑤ 実行委員が講座や講演会を企画して集客をした年もありました。ただ部屋の収容人数が最大30人なので大きなイベントは中央公民館やルネこだいらを使用しました。ここ数年、登録団体懇談会が企画し市と一緒に運営するDV防止啓発講座や人権（LGBT）講座は男女共同参画センター「ひらく」でも開きますが、男女共同参画週間講演会のようにオンラインと会場併用の場合はプロジェクトなど機器の揃った他の施設でも開いています。

委員① 令和6（2024）年3月にセンター「ひらく」開設20周年を記念して登録団体と市が協働で「これらのセンター、ひらくで実施したい」と思われる企画について市民が話し合うワーク



白熱するワークショップ

小平市男女共同参画センター「ひらく」についてのアンケート 2024.11

小平市の男女共同参画社会をめざす広報誌「ひらく」56号作成にあり、小平市男女共同参画センター「ひらく」の利用状況を知るために、アンケート調査を行います。ご協力ください。よろしくお申し込みをお願いします。

あなたの住所：小平市 他市（ ）  
あなたの年代：20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上  
あなたは：女性 男性（ ）

以下の項目で当てはまるものにチェックを入れてください。

1. 小平市男女共同参画センター「ひらく」が利用していることを知っていますか？（小平市小川東町4-2-1）  
 はい  いいえ

2. 小平市男女共同参画センター「ひらく」を今までに利用したことがありますか？  
 はい  いいえ

3. これまでに何回利用しましたか？（複数回答可）  
 1回  2回以上

4. どの時間帯に利用しましたか？（複数回答可）  
 午前  午後  夜間

5. どのように利用しましたか？（複数回答可）  
 団体  個人  会議  図書閲覧  学習  
 休憩（飲食あり、なし）  その他（ ）  
 自分には関係がない  
 その他（ ）

7. 利用したことがない方には、その理由をお尋ねします。  
 初めてセンターのことを聞いた  
 場所がわかりづらい  
 近い場所にある  
 使い方がわからない  
 女性が利用する場所だと思っていた  
 自分には関係がない  
 その他（ ）

※小平市男女共同参画センター「ひらく」  
小平公民館おがわ東 2階  
西武多摩線新山原駅南口下車  
八坂方面へ徒歩3分

ご協力、ありがとうございます。  
「ひらく」56号は2025年3月末に発行予定。おまに市内公共施設にあります。

アンケート回答用紙

### ◆小平市男女共同参画センター“ひらく”登録団体一覧（令和6年9月現在）

小平市女性のつどい／小平市女性のつどい平和学習会／NPO法人小平市民活動ネットワーク／政治・知りたい、確かめ隊／こだいらDV防止ネットワーク／子ども∞幸せ円卓会議 in こだいら／新日本婦人の会 小平支部／インドな人口問題を考える会／精神保健福祉ボランティアの会 ひだまり／鈴の会／朗読サークル ひびき／みんなデパート

※登録は市役所1階市民協働・男女参画推進課で受け付けます（登録は2年ごとに更新）。

※広報誌「ひらく」50号の新旧の実行委員による座談会も併せてお読みください。



委員④ 土足厳禁でカーペット敷きなで、子ども連れにも優しい場所ですね。

委員⑤ 飲食もOKです。ひとりで考え事をする、ちょっとした休憩場所として使う、話し合いの会場がなくて困ったときに利用したという記述もありました。

### これからの「ひらく」像と改善のためのアイデア

司会 しかしながら、現状は他の自治体の男女共同参画センターと比較しても満足のいく状態ではないように思います。小平市男女共同参画センター条例（3ページ掲載）が、具体的事業活動に生かされていらないのが現状と言えましょうか。

委員⑥ まさに自由記述にあるように「単なる貸し部屋状態」ということでしょうか。

委員① 男女共同参画の困りごとのある方の相談にのる、取り組みについての質問に答える、という専門職員はいませんが、部屋の管理をする人はいます。

### 問5 どのように利用しましたか？

利用の仕方	人数
団体	20
会議	18
個人	8
図書閲覧	6
チラシ置きのお願	1
休憩	3
学習	4
印刷	1
仲間と談話	1
作業	1
イベント	1
静かな環境で考え事	1

20年の間に市は、男女平等ではなく市民協働・男女参画に重点を置いたように感じました。

司会 令和8（2026）年度、センター「ひらく」は他の施設と共に小川駅西口複合施設に移転することが決まっています。そこには5つの公共施設が入るので、西部出張所以外の施設は複合した形になり、男女共同参画センター「ひらく」専用の部屋はなくなりそうです。

委員② 移転後は管理・運営体制も変わるようです。それまでの間は、設置された20年前の頃を思い出し、センター「ひらく」の意義が見い出せるような方策を考えたいですね。

司会 まずは、男女共同参画センター「ひらく」の存在とその利用の仕方を広くお知らせすることでしょうか。

委員③ センター「ひらく」のリーフレットは、当時はなかった二次元コードをシールにして貼り付けて配布してはどうでしょうか。

委員④ それを駅やスーパーの市報ボックスに入れたら、公共施設に行かない市民も手にとるかもしれません。

司会 過去にはセンター「ひらく」の部屋を利用してイベントを開催したことがあったんでしょうか。

委員② はい。月1回の「ひらくしゃべり場」（年に数回はひらくカフェも）をひらくサポーターズが運営していました。ワールドカフェ形式のイベントも「ひらく」を利用する団体の有志で開き、いろんな年代の人たちが集まりました。

委員③ こどもが大きくなると女性たちは働くようになって、集まる人たちが減っていきました。

## フォトグラファー長塚秀人さんと男女共同参画社会をめざす広報誌「ひらく」

5号から56号まで25年。フォトグラファーの長塚さんは「毎号ちがうアーティストと会うのが楽しみでした」と静かに話し始めた。その様子は不思議なことに初対面の時と同じだった。

広報誌「ひらく」の表紙は、5号から実行委員会の意見が反映されて大きく変わった。それは、実行委員（のちの表紙担当者）が、小平市近辺（おもに野外）で現代美術作家のアート作品を撮ることを提案したからだ。画廊の方から紹介された長塚さんは、事前に表紙担当者や打ち合わせをするが、現場で判断して撮影を行ってきた。当時はフィルム撮影なので暗室で現像をし、労力をかけた表紙写真を担当課へ送っていた。この時代は「ひらく」の紙質も違い、当然のことながら発色も違った。現在の紙質だと写真が地味な仕上がりになるといふ。

その後、カメラはデジタル化していくものの表紙例を送るようになったが、長塚さんがいいと思う写真がそのまま表紙写真となるわけではない。実行委員会では特集テーマほどではないが時間をかけた話し合いで撮影場所を決め、アート作品はほとんど登場しなくなった。



16号撮影風景  
右 長塚さん。中央 作家。  
左 表紙担当者。

【「前ページ最下段から」】のも簡単にでき、話し合いの会場に困ったとき、一人で考え事したり、ゆったりとしたスペースで重宝していた／広報誌に利用方法を記載して欲しい／資料や本がたくさんあって、それを見ると男女共同参画とは何かかわかると思うが、多くの人の目につかない場所にあるので、新しいセンターができる目立つようになってよいと思う／会議やプライベートな話を他人に聞かれたくないので、閉鎖的な空間も必要なので、男の管理人がいたときはいやだった）新しいセンターには専用の部屋を使えるようにしてください／スリッパに履き替えることは珍しいが、意外とリラックスできる／静かな環境なので集中できる／自分のDVDをスクリーンに映すこともでき、情報共有の場にできる／「ひらく」は「開かれている」という意味があるだけあって、何でも話しやすい／駐車場があるので、助かったことが多々あった／毎月の定例会や毎月のチラシ印刷などお世話になっており、市民活動支援センターあすびあでのコピーなど楽しんで使えます／急な使用もできるので安心して使える／老人会仲間が使った／元氣村まつりで久しぶりに会った仲間と談話した／市・市民にとって大切・重要な施設なのに、宣伝が不足。対象が市民なのに多数の市民はセンターのことを知らない



入口でスリッパに履き替える

実行委員会の意見が必ず分かれるので、多数決で決めてきた。

インタビュー最後の「これほど長く続いた撮影はないです。ありがたいです。」という長塚さんの言葉をここに残したい。そして、こちらからの言葉も。「長塚さん、長い間ありがとうございます。」



ひらく5号 長塚さんが最初に撮影した表紙



ひらく33号 作家のアトリエで 記憶に残る撮影

広報誌「ひらく」は、フォトグラファーが表紙撮影をする。そこが他市発行の同種の広報誌と大きくちがう点だ。読者から「表紙も立派です。プロの撮影ではないでしょうか？」という投稿が届いたり、都内自治体の広報誌が収められた東京ウィメンズプラザ図書資料室（渋谷区）でも「ひらく」は目立っていた。現在でも小平市男女共同参画推進審議会を傍聴すると、「広報誌「ひらく」の広報をもっとすべき」という意見が毎年出る。「表紙はその冊子の『顔』……男女共同参画社会は未知の社会……斬新なイメージを持つ表紙がふさわしい」と話す表紙担当者の声がよくあがってくる。

令和6年度 **東京** 今こそジェンダー平等!  
**ウィメンズプラザ**  
**フォーラム**  
 日時 **11/9** (土) 10:00-19:30 **10** (日) 10:00-16:00  
 入場無料  
どなたでもご参加いただけます

正則学園高等学校 花いけ男子部  
**花いけパフォーマンス**  
**「ハナヒラク、明るい未来」**  
 2024年高校生花いけバトル全国選抜大会優勝チームが、花を通してイキキと自分らしさを表現します。  
 [日時] 11/9 (土) 12:10 ~ 12:45



プラン・ユースグループ (国際NGOプラン・インターナショナル)  
**「ジェンダーもやもや、燃やそう!」**  
**4コマ漫画展示会**  
 コース (15 ~ 24歳の若者) が感じる「ジェンダーもやもや」を題材に作成した4コマ漫画を展示します。  
 [時間] 終日 [会場] 交流コーナー

株式会社ポーラ  
**「女性も男性も、自分らしく元気になるメイクレッスン」**  
 自分に合ったメイクを知ること、日々の生活を少しでも明るく過ごせるよう、一人ずつ個別にメイクレッスンします!  
 [日時] 11/10 (日) 11:00 ~ 15:00

画像は令和6年度東京ウィメンズプラザフォーラムチラシより抜粋

団体が、ジェンダー平等に向けて、講座・会議・展示・パフォーマンスなどを実施していました。フォーラムに出向いた男女共同参画推進実行委員としては、男子高校生による「花いけパフォーマンス」や、「4コマ漫画展示会」や、「女性も男性も、自分らしく元気になるメイクレッスン」が印象に残りました。出向いた委員は、各個人の興味・関心に応じてジェンダー問題に取り組みやすい、と感じさせられました。

## 行ってみました

2024年11月9日(土)と10日(日)に開催された「令和6年度東京ウィメンズプラザフォーラム」に、小平市男女共同参画推進実行委員も行ってみました。

「東京ウィメンズプラザ」の最寄り駅は、JR渋谷駅、及び、地下鉄表参道駅。都民と行政が協力して、男女平等社会の実現や女性問題解決に取り組む拠点です。

ここでは、女性や男性のための悩み相談や法律相談、男女平等参画への理解を深めるための講座の開催、DV防止などの取り組みを行っている団体などへの助成、男女平等参画に関連する資料・図書の収集・貸し出し・情報提供、など男女平等参画に関する様々な事業を行っています。

年に1回、「東京ウィメンズプラザフォーラム」が開催され、様々なプログラムやワークショップを通して、ジェンダー平等に関する情報収集や体験が、まとめてできるイベントとなっています。令和6年度には、高校生・大学生などの若い世代を中心として、民間38

皆さんの声をお寄せください。

メールアドレスや二次元コードなどからお寄せください。

●市民協働・男女参画推進課へメール  
 danjokyodo-sankaku@city.kodaira.lg.jp



## ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11か所)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、ふれあい下水道館

小川町	手作りクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、和食処 楠	広報誌「ひらく」のバックナンバーはこちら
小川西町	たましん小平支店、小川ホーム	
小川東町	ギャラリー青らんぎ	上水本町 アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロンサンローズ、美容室ヘアグラッシュ、ヘアサロン サンライズ、笹間住宅資材、学園整骨院、国際交流協会、しらす鍼灸治療院	
学園東町	日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、ふく歯科、美容室 Je、とりあん、Kimamaya T&K、宮鍋本店	
仲町	小平消防署	鈴木町 leggg Cafe
天神町	ビレッジグリーン	
美園町	カフェラガラス、珈琲の香、POEM (ぼえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ボリビア	
大沼町	ガスムミュージアム	花小金井 公立昭和病院、小平福祉園

## 編集後記

アンケート集計の難しさを感じた。アンケート開く陽春の日々。ゆったりと春らんまん「ひらく」開いて。考える。参画の目指す社会の光明を探り当てて「ひらく」の悩み(H)突然起こる男女共同参画の困り事。動揺するも、静かに落ち着ける場所。ひらくへ来てきてきた。これからも続けた。二十一年経過のひらくの場所。小平市民に無名な場所である。認知度あげる為に今までとは異なった広報活動を願うばかりです。Y)特集で見えた課題は、ずっと抱えてきたもの。実現したい未来を見つめ、新たな視点で少しでも前に進めたい。(M)以前取材した方が、私も実行委員をしてみたいと言ってくれた。(雅)うれしい限りです。次回からは仲間ですね。(幸)

## ひらくの書棚



共立出版 2600円+税

『コンピューター誕生の歴史に隠れた6人の女性プログラマー』  
 キャシー・クレイマン 著 羽田昭裕 訳  
 本書は、第二次世界大戦中に開発された、ENIAC(世界初の電子式プログラム可能汎用計算機)をプログラムするために抜擢された、6人の女性プログラマーたちのオララルヒストリーである。また、オペレーティングシステムもプログラミング言語もない環境の中で、彼女たちは探求心とチームワークによって、困難な課題を乗り越え、今に生きる手法を編み出したという。しかし、女性が専門家として待遇されなかった時代、その功績はほとんど知られていなかった。筆者によって光を当てられた彼女たちの活躍は、困難な課題解決を迫られる現代に生きる私たちの背中を押してくれる。

KADOKAWA 900円+税

『家族と国家は共謀する』  
 サバイバルからレジスタンスへ  
 信田さよ子 著  
 「知らないうちよかつた」。講演会のあと、若い女性が言った。(本書より引用)  
 長年、カウンセラーとして、著者が相談者と向き合ってきたカウンセリングの現場から見たもの。DVや虐待などの過酷な状況。隠蔽され、忘却され、なかつたこととにされてしまう事実。「支援を求めた」からこそ語られた現実。そして、そこにさえもたどり着けない取りこぼされる人々……。国家権力の介入が許されない「家族」は、いわば無法地帯。そこに国家と家族の暴力の共通性を見る。被害者は、日々の環境の中で、生きていくための「抵抗」、レジスタンスを行っているのだ。

『消費される階級』  
 酒井順子 著  
 人が二人いればすぐに上下をつけたくなる人間という生き物は、今も、もしかしたら本能なかもわからないその「上下差をつけたい」という欲望を内に秘めつつ、「違いを認め合い、すべての人が横並びで生きろ」という難題に挑もうとしています。(以上は本書の「はじめに」より引用)  
 『ドラえもん』が表す子供社会格差、反ルツキズム時代の容姿磨き、など二十一編のエッセイが収まっています。生活の中にさり気なく潜む階級(格差)に着目した、得意の辛辣かつ的確な文章は読みやすく共感できる一冊です。  
 集英社 1700円+税



『呪いの言葉の解きかた』  
 上西充子 著  
 私達の思考と行動は無意識に「呪いの言葉」に縛られている。「文句を言うな」「君だつて一員なんだから」「嫌なら辞めちゃえよ?」「母親なんだからしっかりしなさい...」  
 政権の欺瞞から日常のハラスメント問題まで、隠された「呪いの言葉」を徹底的に解く。労働をめぐる呪いの言葉(パワハラ、残業代、働き方)、ジェンダーをめぐる呪いの言葉(セクハラ、結婚、虐待)、政治をめぐる呪いの言葉(国会答弁、デモ、恫喝)の三つに分けて書かれている。相手に力を与え、力を引き出し、主体的な言葉を促す言葉、さらに自ら生き方を肯定する言葉にも目を向けている。  
 晶文社 1600円+税



## マンスプレイング

マンスプレイングとは、俗に言う「説教おじさん」や「男の説明しがり」を指す。『Men Explain Things to Me』(2018 米国女性作家レベッカ・ソルニット著 訳ハーン小路恭子)という本がきっかけとも言われる。大部分は男性から女性への発言が占める。が、反対に女性から男性へのものである。また、社会の中の少数派に対して行われるものもある。「社会構造の問題」だと訳者の小路さんは新聞記者に答える(参考 朝日新聞記事 令和6(2024)年6月2日、9日)。例えば、学校時代には男子が「英語の点数、何点だった? オレ98点。勉強の仕方はね...」と言ってきた。大人になってからも職場で、コピー機に近づくと「操作の仕方わかる?」という先輩や「学校でなにを勉強してきた? 仕事は17時からが本番。」という大先輩が現れて、(発言の意味がわからないんですけど)と戸惑った。こども会役員の時、「市内全域のこども会の集まりで発表できるような高度な企画を」と町内会長が要求してきた。市民活動を続けるうち、都内の会合で初対面なのに「ホントにホームページの更新してんすか?」と年下の中年男性が説明を始めた、等々。  
 マンスプレイングに気づく人たちが多ければ、誰もが居心地のよい社会に変わっていくと思う。



## 表紙について



撮影:長塚 秀人

予定表に映り込んだのは外の景色。どの写真も静けさと穏やかさを表わしている。センター「ひらく」編集室・登録団体活動室だけではなく、人生の困りごと避難所であり、進む方向を考える場所でもある。ここにあってよかった。

## 公民館活動への熱い思い

今回は、『土曜男のクッキング』代表の鈴木一雄さんにインタビューさせていただきました。

鈴木さんは福島県出身で、花小金井南町に15年住み、その後、鷹の台に移り住まれたそうです。以下は、鈴木さんのお話です。

◇ ◇ ◇

65歳まで働き、退職後、平成22(2010)年3月20日号の市報に載った『土曜男のクッキング』を見た家族が「一人の時に何も作れないと言うのでは困る。ご飯と味噌汁ぐらいは」と勧めてきたので、それで入会をしました。

『土曜男のクッキング』サークルは、基本的には、和洋折衷みたいな感じでやっています。月2回、第1週と第3週土曜の午後1時～5時まで活動しています。

最初の時は、やはりレシピ通りに作りましたね。

楽しんで料理を作っています。皆で集まって作る時は、1グループが5人ぐらいですので、1人が1品を作るような感じですね。

コロナ禍ではリモートもありました。その時は、1人で3品作らなくてはならないので、朝から準備をして家族に「夜ご飯は任せて!」と言って大変ですが作りました。

でも、やっぱり実際に集まって、しゃべりながら、あーでもないこうでもないと話しながら作りたいです。皆が集まらない時もZoom等で、サークル活動が可能という事も重要ですね。

クッキングの延長でこども食堂にもかかりました。公民館の「こども食堂」という講座があり、一緒に受講されてた方から「こども食堂を立ち上げるので調理とかを手伝って欲しい」と頼まれました。その頃は少なかったですが、今は20か所。

運営委員会が、月1回開かれ、次のメニューを考えたりします。1回に80食を作っています。勉強になりますし、なんか大量に作ると美味しくなるんですよね。

小平だと地場野菜が美味しいです。やっぱり美味しいものを食べてると幸せですね。以前、カミさんが自分のために作ってくれた料理に、醤油を追加してかけたりして、失礼な事をやっていた!と思います。

公民館愛が強いので、①『土曜男のクッキング』、②『ほぐひも体操津田』、③『楽しい己書(おのれしよ)の会 in 津田』等のサークル活動もしています。

公民館活動の思いとしては、やっぱり最近ちょっと高齢化していますから若い人を呼びたいな一つ! 公民館に居場所づくり・皆で楽しい場所・集まる場所になって欲しいと願っています。

◇ ◇ ◇

公民館への熱い思いを語って下さった鈴木一雄さんは『津田公民館友の会』の会長でもあります。



一生懸命作った料理

## 第28回 ひとひと 女と男のフォーラム

### 死なないノウハウ、伝授します ～貧困、病気、介護、トラブルに無敵になる方法～

令和7(2025)年2月15日(土)午後2時～4時 小平市中央公民館ホール

講師 雨宮処凜さん 作家、反貧困ネットワーク世話人



不確実な世界に身を置く生身の人間、誰しもが抱える生や死に関わる様々な不安や困難。

雨宮さんはそれらに対処する方法を、ご自身の豊富な経験をもとに具体的に話されました。

肝になるのは情報を得ること。自分が助かるためのみならず、他者に手を差し伸べる手だてにもなる、と。切実な内容だけに講演後の質疑応答も活発になされました。



ひらく

第56号  
令和7(2025)年  
3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課  
☎ 042-346-9618

✉ danjokyodo-sankaku@city.kodaira.lg.jp

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会

伊藤 純子 高橋 雅子 谷原 裕子  
中條 洋子 中村 幸世 保坂 博子  
宮川 和之

### 令和7年度 小平市男女共同参画推進実行委員 募集!

男女共同参画を進めるため、講演会の企画・運営、広報誌『ひらく』の企画・編集などの活動をしていただける方を募集します。任期は令和8(2026)年3月末までです。

- 対象** ○市内在住・在勤・在学の方(経験は問いません)  
○月1～2回の会議(平日または土曜日に開催)に半数以上参加できる方
- 募集人数** 15人
- 募集期間** 令和7年4月21日(月)午後5時まで
- 応募方法** 下記の必要事項をご記入の上、窓口・郵便・電子メールで応募先へ。  
①氏名(ふりがな) ②住所 ③テーマ作文(200字以上400字以内厳守)  
④メールアドレス ⑤電話番号
- 応募先** 小平市 地域振興部 市民協働・男女参画推進課 男女共同参画担当  
詳細は市報4月5日号または小平市ホームページをご覧ください。